第 195 回 長崎大学 FD 実施報告書（令和元年 9 月 10 日提出）

１．題　　目　：　ICT 活用による授業改善

２．日　　時　：　令和元年 8 月 27 日（火）　10:30-12:00

３．場　　所　：　第 5 会議室（文教キャンパス 教育学部 2 階）

４．主　　催　：　教務委員会
　企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　　象　：　全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学 FD に関する申合せ第 2 第 1 項の該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）：
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回の FD の趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）：
　多様な授業教材の作成方法を知り作成できる。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）：
　講　　師：　若菜 啓孝　教授（大学教育イノベーションセンター）
　内　　容：　ICT を活用し，事前事後学習を促す手法や知識の確認を行うための手法について学び，今後の授業設計および改善についてのヒントを提供します。

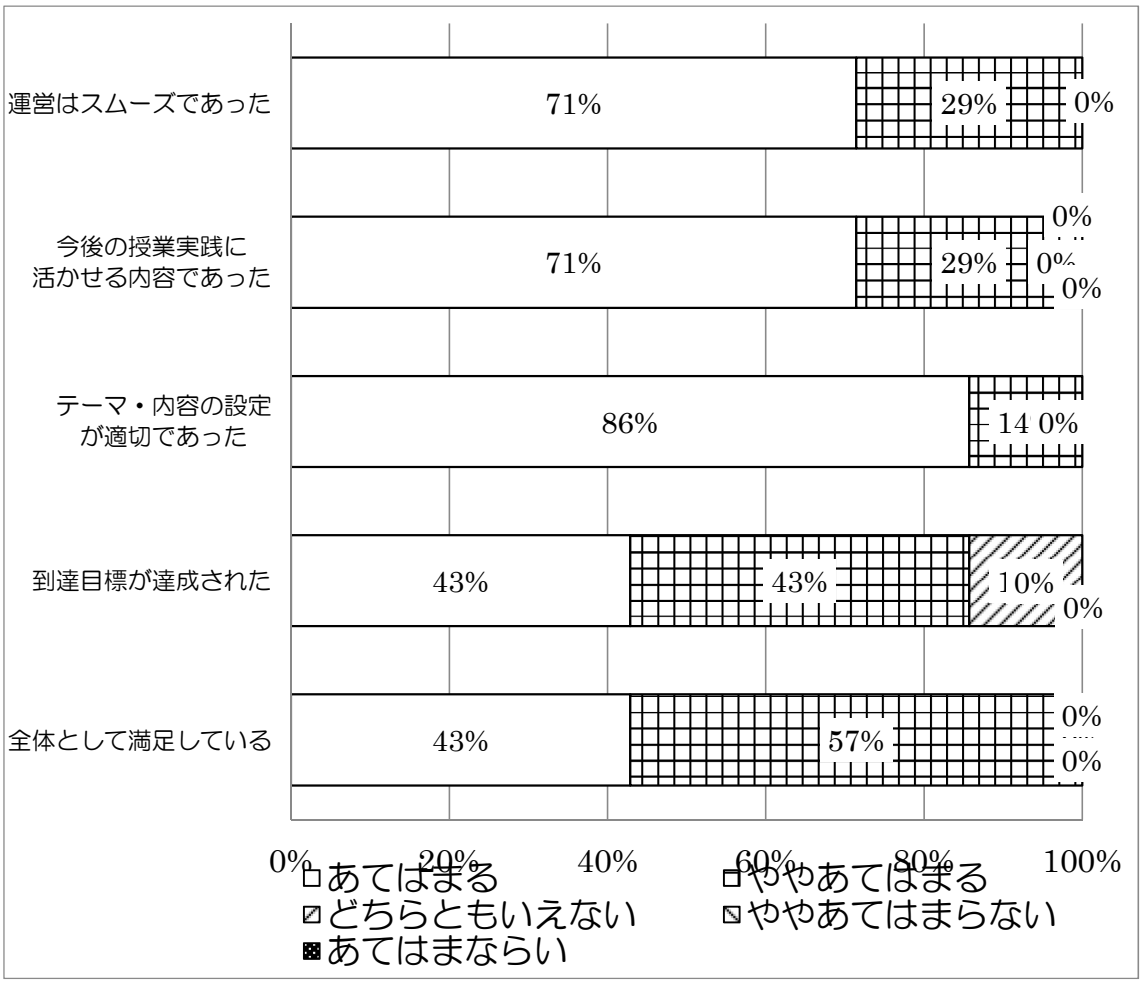
９．参　加　者：　16　名（受講証明書発行対象者：　16　名）

（内訳）

| 所　属 | 人　数 |
|---|---|
| 工学研究科 | 6 |
| 多文化社会学部 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（医学系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保健学系） | 2 |
| 留学生教育・支援センター | 1 |
| グローバル連携機構 | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科（環境科学領域） | 2 |
| 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 | 1 |
| 情報系新学部創設準備室 | 1 |
| 計 | 16 |

１０．実施したＦＤの成果等：

（1）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



●今回のプログラムについて，お気づき・ご意見・ご感想。
・amazon polly についてもう少し詳しく知りたかった。
・Microsoft Form を今後上手く活用していきたい。
・実習にもう少し時間が配分（もしくは追加）しても良かったのではないかと思います。
・ICT を活用した教育として，動画による教材を示されていましたが，どういった科目だと効果的なのか知りたいと思った。実際に動画教材を用いた場合の学生からの反応も気になった。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容について，ご意見・ご要望。
・今回のような教育テクノロジーに関するもの。
・受講生のモチベーションアップ法など。
・すぐ思いつきません。
・次はグループ学習の授業デザインや実例などでしょうか。
・LACS の効果的な教育活動への使い方と LACS の改善が望まれること。

(2) 総　　括

従来，授業時間内に行われていた前回授業までの復習について，授業をより効率的に行うためのビデオ教材の作成方法について講義があった。ビデオとしては，5～10 分程度と短めにし，最後に確認事項を入れることが重要であるとの説明があった。学生の利用率を上げるためには，レポートと連携することなどの運営上の工夫も必要となる。また，ビデオ教材に必要なナレーションについて，説明音声を合成する Amazon Polly などの複数のアプリケーションが紹介された。音声合成アプリケーションは，教員のビデオ教材作成の負担を減らすために非常に有効である。また，クリッカーよりも手軽に利用できるレスポンスアナライザーとして，Microsoft Form（長崎大学サイトライセンス）も紹介され，アンケートや小テストにも利用でき，アクティブな授業に役に立つツールであるとのことであった。

今回の FD には多くの学部から受講があり，どの学部においても効率的な授業がもとめられている。講師の若菜先生には，授業を充実させるための注意点や，実際にアプリケーションをデモンストレーションして頂くなど，丁寧な解説を行って頂いた。教員の授業負担を減らし，学生の効率的な学習を促すためにも，ICT 利用が有効であり，ライセンス料などの負担を増やすことなしに利用できる環境が整ってきていることが共有された。今回紹介されたアプリケーションを用いて，事前学習教材の整備や，レスポンスアナライザを積極的に利用することにより，勉学意欲の高い学生に向けて高度な履修内容とすることができるとともに，成績中間層の学生にも確実な学習習熟度を達成できることが期待できる。

１１．実施代表者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
若菜 啓孝　教授
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2907

１２．申請者の連絡先：

学生支援部 教育支援課 総務班（教育改善）
田川 貴明　班員
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2088

第195回 長崎大学FD実施報告書（令和元年9月6日提出）

１．題　　目　：　授業の動画コンテンツ化推進プロジェクト報告1

２．日　　時　：　令和元年8月27日（火）　14:00-15:30

３．場　　所　：　第5会議室（文教キャンパス 教育学部2階）

４．主　　催　：　教務委員会
　企画・実施：　評価・FD教育改善専門部会

５．対　　象　：　全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学FDに関する申合せ第2第1項の該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）：
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のFDの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）：
　自身の授業教材を動画コンテンツ化することや動画を授業実践に活用することの計画を立てられる。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）：
　講　　師：　中道 聖子　准教授（医歯薬学総合研究科）
　　上繁 義史　准教授（ICT基盤センター）
　　牧野 一穂　准教授（教育学部）
　　北村 史　　助教（大学教育イノベーションセンター）
　内　　容：　平成30年度に実施した「授業の動画コンテンツ化推進」の取り組みに協力参加した学内教員に事例報告をしていただき知見を共有するとともに，動画の効果的な活用について理解を深めることを目的とする。

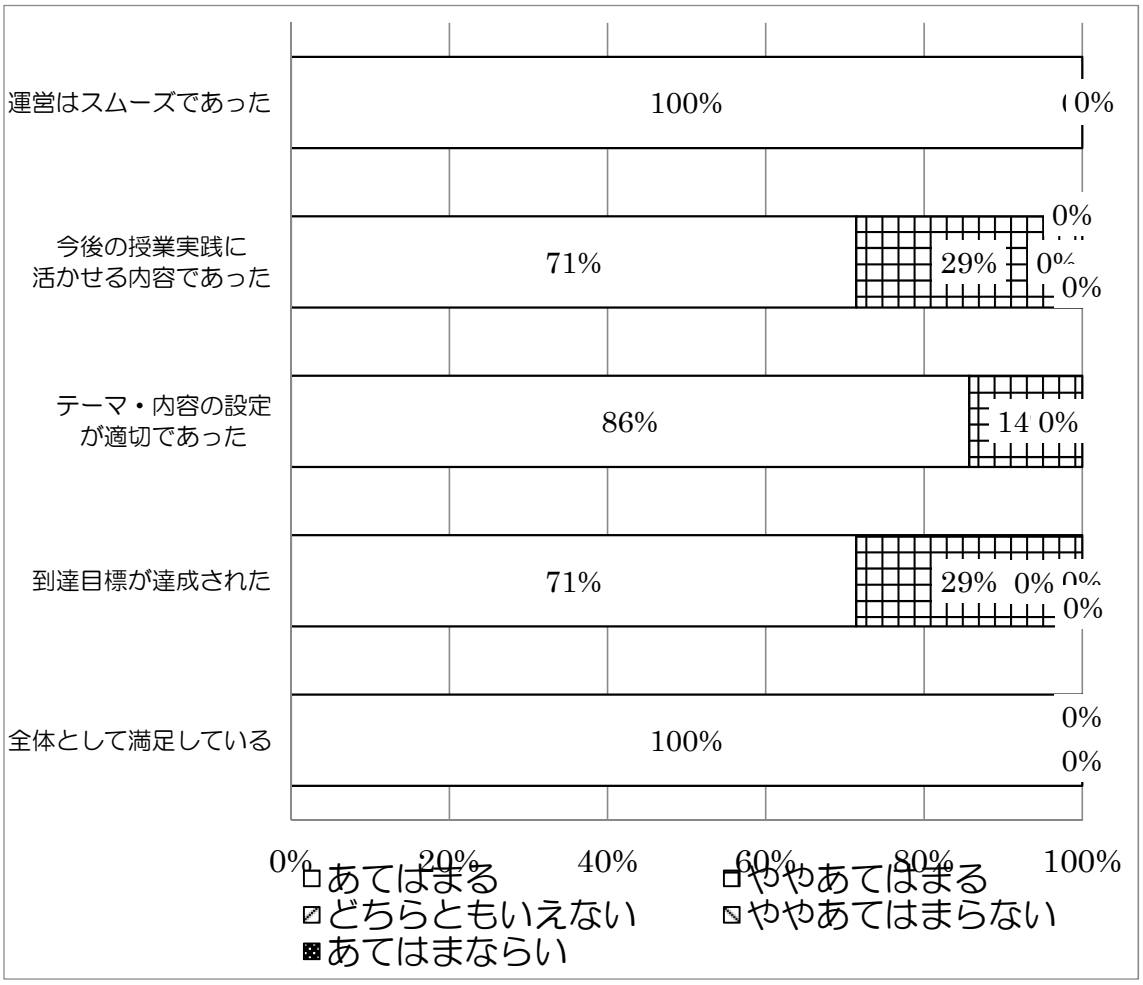
９．参　加　者：　12　名（受講証明書発行対象者：　12　名）

（内訳）

| 所　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 1 |
| 工学研究科 | 3 |
| 病院 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（医学系） | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科（環境科学領域） | 3 |
| ICT 基盤センター | 1 |
| 薬学部 薬学科 | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| 計 | 12 |

１０．実施した FD の成果等：

（1）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



●今回のプログラムについて，お気づき・ご意見・ご感想。
・色々参考及び勉強になりました。
・動画コンテンツの適切な使い方のアドバイスがもらえると良かったです。
・発表者として参加いたしましたが，他の先生方の事例から，まだまだ改善できそうな点がいくつもみつかりました。また，どうやら，動画と相性のいい，あるいは，悪い講義もありそうですので，ブレンドしながら，講義を行いたいと思います。
・専門分野の異なる先生方の動画コンテンツの利用法，利用状況を知ることができたのは，非常に有意義でした。北村先生がおっしゃっていた，動画での聞き手とのインタラクションはぜひ試してみたいと思いました。
・実習時間がもう少しあれば良かった。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容について，ご意見・ご要望。
・理工学系の講義でのアクティブラーニングの活用法。
・今後もアウトプット法についていろいろとアイディアやテクニックを教えて頂けたらありがたいです。
・教育教材のデータバンク化など。

(2) 総　　括

本 FD は，本学において，授業の動画コンテンツ化を推進していくために，動画のコンテンツ化の意義を理解していくために開催されました。大学教育イノベーションセンター北村先生から動画コンテンツの利点や授業での活用の仕方について報告を頂きました。次に，医歯薬学総合研究科総合診療学分野中道先生から，医学教育における授業における動画コンテンツの活用事例，ICT 基盤センター上繁先生から教養教育における動画コンテンツ教材の作成と個人的なノウハウについて，教育学部芸術表現講座牧野先生から，絵画の講義における動画コンテンツの活用事例についてご報告いただき，その後全体討論を行いました。

参加者からの評価として，「全体として満足している」は 100%であり，全員が満足していたことが確認された。一方で，「今後の授業実践に活かせる内容であった」，「到達目標が達成された」で当てはまるは 71%であり，十分に高い値ではあるが，相対的には低い値であった。

参加者は 12 名と少なかったため，今後は，この利点を活かして，簡単な「動画コンテンツの作成」に充てる時間を作ってみても良いのではないかと思います。

１１．実施代表者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
助教　北村 史
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2455

１２．申請者の連絡先：

学生支援部 教育支援課 総務班（教育改善）
班員　田川 貴明
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2088

第 195 回 長崎大学 FD 実施報告書（令和元年 10 月 4 日提出）

１．題　　目　：　学びのユニバーサルデザイン（UDL）の実践へ

２．日　　時　：　令和元年 9 月 18 日（水）　14:30-16:00

３．場　　所　：　第 5 会議室（文教キャンパス 教育学部 2 階）

４．主　　催　：　教務委員会
　企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　　象　：　全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学 FD に関する申合せ第 2 第 1 項の該当について【複数選択可】
　（該当するものに〇を記入すること）：
　［　〇　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回の FD の趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）：
　自身が担当する授業において，実際に導入できる具体的なツールや手法を一つ以上特定する。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）：
　講　　師：　ピーター・バーニック　助教（障がい学生支援室）
　　北村 史　　助教（大学教育イノベーションセンター）
　内　　容：　UDL に関する理解や知識を深め，グループワークを例にして，実際に授業で使用できるツールや手法を紹介したうえで，具体的な導入について検討する。

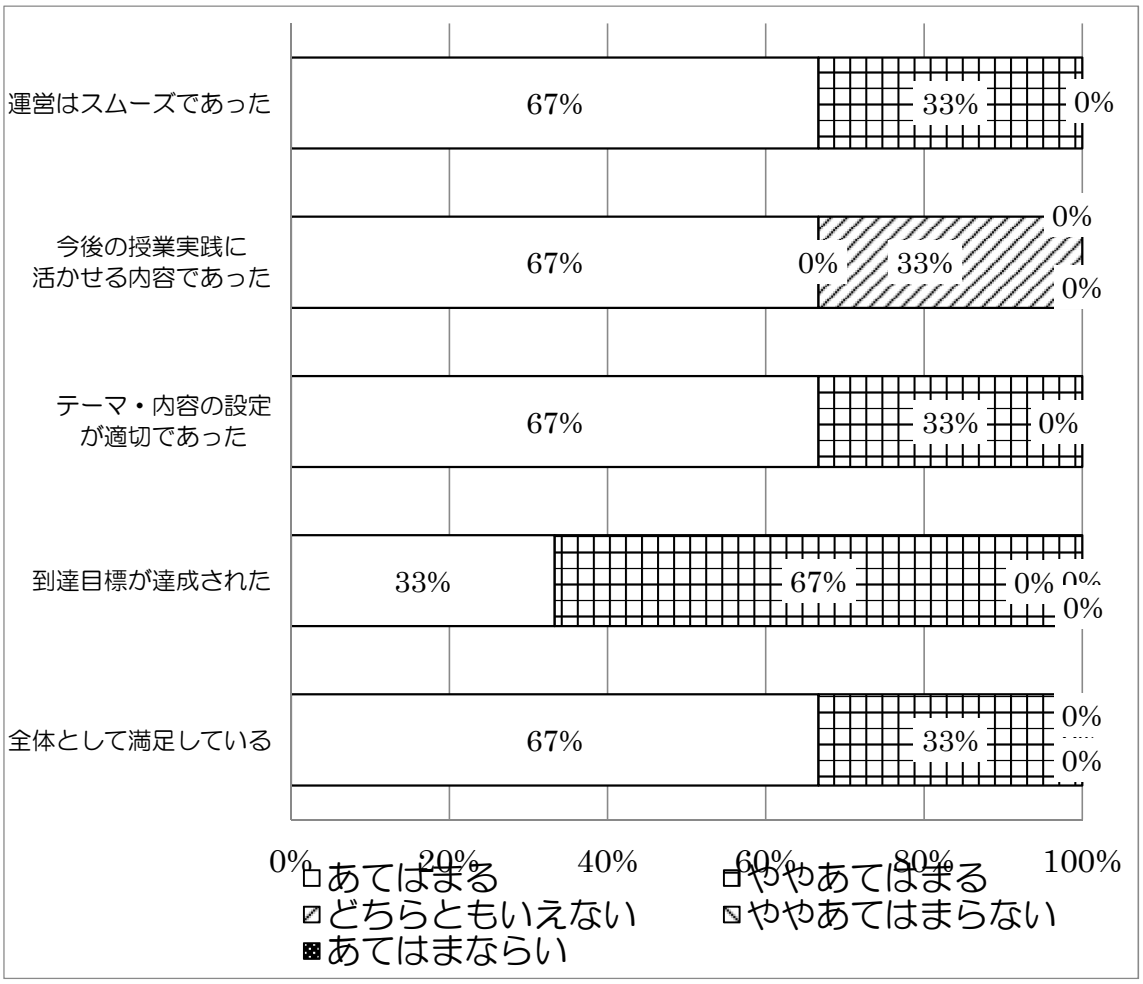
９．参　加　者：　13　名（受講証明書発行対象者：　13　名）

（内訳）

| 所　属 | 人　数 |
|---|---|
| 経済学部 | 1 |
| 医学部 | 1 |
| 水産学部 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保健学系） | 1 |
| 工学研究科 | 1 |
| 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 | 2 |
| 留学生教育・支援センター | 2 |
| ICT 基盤センター | 2 |
| 学生支援部 教育支援課 | 2 |
| 計 | 13 |

１０．実施した FD の成果等：

（1）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



●今回のプログラムについて，お気づき・ご意見・ご感想。

・最後の先生方の意見のやりとり、深くて面白かったです。北村先生が教えてくださった付箋紙のブレーンストーミングで使われているアプリは「Post-it」ですか？

・いくつか質問したいことがあったが、時間の関係で質問できなかった。もう少し質疑応答の時間がほしかった。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容について，ご意見・ご要望。

・UDL について。

・大学全体で取り組む学びのユニバーサルデザインと，そのシステムの構築の仕方について皆で考えディスカッションできる FD を希望します。

(2) 総　　括

本ワークショップ（長崎大学 FD）は，UDL に関する知識を深め，実際に授業で使用できるツールや手法を紹介し，具体的な導入について検討するために開催された。最初に，障がい学生支援室のピーター・バーニック先生に，「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の実践へ」について概要をお話いただいた。次に，大学教育イノベーションセンターの北村史先生に，「学びのユニバーサルデザインを考慮したグループディスカッションの試み」について応用例をお話しいただいた。

参加者からの評価として，満足度については「あてはまる」が 67%，「ややあてはまる」が 33%となっており，満足度の高い FD であったことが確認された。また，「自身が担当する授業において実際に導入できる具体的なツールや手法を一つ以上特定する」という到達目標の達成度については，「あてはまる」が 33%，「ややあてはまる」が６７％となっており，多くの参加者が到達目標に達成できたことが確認された。

（文責：鈴木利一）

１１．実施代表者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
助教　北村 史
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2455

１２．申請者の連絡先：

学生支援部 教育支援課 総務班（教育改善）
班員　田川 貴明
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2088

第 195 回 長崎大学 FD 実施報告書（令和元年 10 月 4 日提出）

１．題　　目　：　学生の授業到達目標の度合いを測る

２．日　　時　：　令和元年 9 月 26 日（木）　10:30-12:00

３．場　　所　：　第 5 会議室（文教キャンパス 教育学部 2 階）

４．主　　催　：　教務委員会
　企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　　象　：　全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学 FD に関する申合せ第 2 第 1 項の該当について【複数選択可】
　（該当するものに〇を記入すること）：
　［　〇　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回の FD の趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）：
　成績を付ける尺度でルーブリックを作ることができる。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）：
　講　　師：　若菜 啓孝　教授（大学教育イノベーションセンター）
　内　　容：　成績評価の公平性・厳格化のために，各科目の学習・教育目標に含まれる汎用的能力等の達成度を評価する科目ルーブリックについて学び，各教員のシラバスの「授業到達目標」の項目の確認を行います。

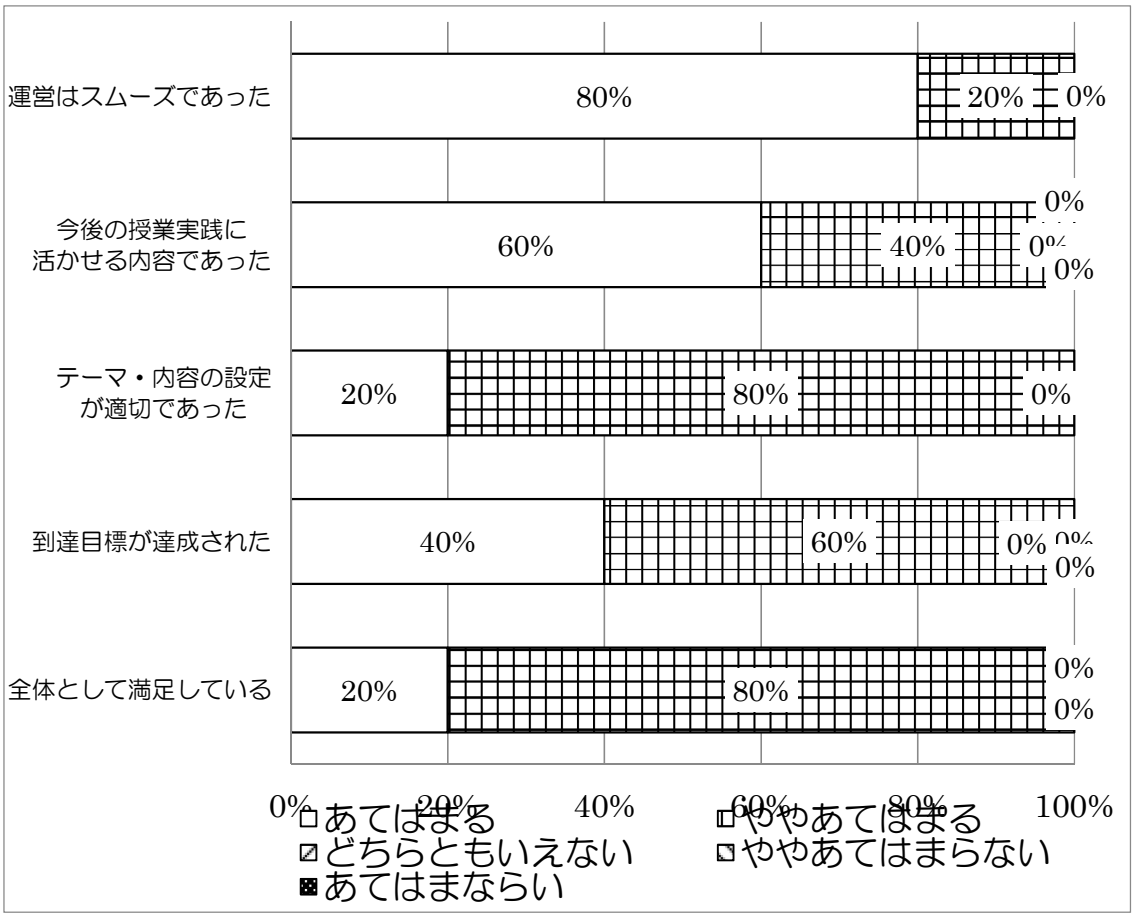
９．参　加　者：　14　名（受講証明書発行対象者：　14　名）

（内訳）

| 所　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 2 |
| 医学部医学科 | 1 |
| 環境科学部 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（薬学系） | 1 |
| 工学研究科 | 2 |
| 水産・環境科学総合研究科（環境科学領域） | 2 |
| 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 | 1 |
| 保健・医療推進センター | 1 |
| 感染症共同研究拠点 地域連携部門 | 1 |
| 学生支援部 教育支援課 | 2 |
| 計 | 14 |

１０．実施したＦＤの成果等：

（1）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



●今回のプログラムについて，お気づき・ご意見・ご感想。
・来年のシラバスの作成が面倒なことになるのを事前に知れてよかった。
・前任の先生が作られたシラバス通りに授業していたので，ルーブリックを自分自身で作ることにより，改めて授業の意義を再認識出来ました。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容について，ご意見・ご要望。
・学習の動機付けを与える方法。
・学生も多様化しており，その中でグループを率いていく大変さを痛感しております。リーダーシップ醸成セミナーなどあれば参加させて頂きたいです。

(2) 総　　括

14 名の参加者に対して「学生の授業到達目標の度合いを測る」という FD が大学教育イノベーションセンター若菜啓孝教授により開催された。大学全体の指針の中からルーブリックの位置づけ，ルーブリックの活用法について学び，各教員のシラバスの「授業到達目標」等と教育目標との一致の必要性などに説明があった。その後，参加者が自らのシラバスを基に，特に「授業到達目標」の項目の記述を基にしたルーブリックの作成時間を設けた。最後に，質疑応答が行われた。参加者からの評価は，「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が非常に高く，有意義な FD がなされたと総括できた。

１１．実施代表者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
若菜 啓孝　教授
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2907

１２．申請者の連絡先：

学生支援部 教育支援課 総務班（教育改善）
田川 貴明　班員
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2088